

第22回 錦帯橋さくら守 活動実績

平成27年1月22日

1 活動日及び参加者名

1月12日(月、祝) 09:30~15:00

児玉(廣) 杉山 進藤 河本 児玉(加) 島崎 田中 大原 志賀 野田 佃
小川 西本 富田 以上合計 14名

1月13日(火)~23日(金)

市役所玄関ホールにて活動中の写真・会員募集のパネル展示

2 実施作業

(1) 今月の活動予定、作業実施上の留意事項等の説明

(2) 作業内容

地区名	樹木番号	
	寒肥	備考
公園内	合計約300本	施肥作業を実施した。



今月の活動メンバー



施肥活動の状況



市役所玄関ホール展示

3 今月の気になる木

施肥作業に専念したため一本の天狗巣病を発見したが翌月以降に処理することとした。樹木が成長し添木の役目を終え、かえって生育の邪魔をしているものもあり市での対応をお願いします。またこの時期菌糸類の付着が目立つサルノコシカケ数本を足や鍬の柄で処理したが消毒までは実施出来なかった。

4 特異事項

年間を通じて木々を見ていると処分したはずの木にも新たな天狗巣病が見つかることがある。吉香公園内では総じて探す方が困難な状況でありよく管理されていると感じる。

先日、市内の某所で100本以上はある見事な桜並木に行ってみた。さぞかし春に立派な花を付け市民の憩いの場所になっていることだろうと思い近づいて驚いた。並木の全てが根元から高い枝先までびっしりと天狗巣病に侵されている。更に植栽間隔が5m以内と狭く互いに干渉し日照を妨げている現状である。

天狗巣病は菌が枝に侵入して発病するものであり、伝染するという事は聞いて理解

していたつもりであるがこれほどまでに一本の木全体、更に並木全てがまるで鈴なりになっているさまは想像も出来なかった。このままの状態だとやがては木が枯れてしまうであろう。手入れされないさくら名所は消滅する恐れがあるという見本のようなものであり「おぞましき」さえ感じた。

この地で春先一斉に咲くさくらに勇気づけられる人々はいても、そこに植えてある木の全てが病気に侵されたり栄養、日照が足りないため生育状況が悪くやがては立ち枯れするということの重大さを理解している人はいないであろう。一刻も早く管理者が適切な処置をする必要がある。



岩国の市の花は さくら である。しかしながら市民のうちこのことを知っているのは少ないように思う。現在のところ当会は活動の範囲を錦帯橋周辺に限っているが今後は「錦帯橋さくら守の会」がリーダーシップをとって他の地域でも地元の人と一緒にさくらの普及活動にも取り組んでいかねばならないと痛切に感じた。

まずは岩国市の花がさくらであることを市民に知ってもらう啓蒙活動から始めたい。

5 来月の予定

第2回さくら守講座 サンライフ岩国 10:00~12:00

(1) 場 所 会員集合ロープウェイ駐車場

(2) 日 時 2月14日(土) 09:30~15:00

10:00~12:00 講座 (児玉実施)

13:00~15:00 枯枝等の剪定

故 正本 良忠 先生との出会い

錦帯橋さくら守の会 会長 児玉 廣志

錦帯橋さくら守の会の相談役である正本 良忠氏が急逝されました。

1月17日（土）にはお元気でいつものようにご夫婦そろって宮島さくら・もみじの会の活動に参加されておりましたが18日朝 虚血性心疾患のため急逝されたそうです。残された御家族の皆様にお声をかける言葉も見出せませんでしたがあらためまして謹んでお悔やみ申し上げます。

「錦帯橋さくら守の会」を代表してお通夜、葬儀に参列してまいりました。亡き先生の御意志を継ぎさくら守の ともしび を更に広げますと誓ってまいりました。ここに喪主の愛子夫人のご挨拶をご紹介します。

友に歩んだ幸せな日々に、 心から感謝して

みずえ緑地株式会社の会長、広島県緑化センターの相談役として、さまざまな環境活動に携わった夫でした。宮島や土師ダム、錦帯橋などの緑化活動を通じ、たくさんのご縁を紡いできました。とりわけさくらを愛し、さくらについて学ぶため遠く青森まで足を運ぶなど、夫婦で日本各地を巡ったものです。

夫は、原爆で父親を亡くしました。皆で懸命に復興させたこの街で花に希望を託し、それを後世につなげようとしたのでしょう。人に助けられた感謝の念を忘れず、恩返しを人生の教訓として歩んだ夫の生き方は、二人の息子たちにも多くを教えていたと振り返っています。

夫 良忠は、平成二十七年一月十八日、八十二年の生涯をとじました。別れの悲しみはつゆのりませんが、夫はこれからもお浄土より見守ってくれると信じ、皆で感謝とねぎらいの気持ちを込めて見送ります。

生前皆様に賜りました格別のご厚誼に、深く感謝申し上げます。本日はご会葬いただき、誠にありがとうございました。

略儀ながら書状をもちまして厚くお礼申しあげます。

平成二十七年一月二十日

広島市西区南観音八丁目二番三十二号

喪主 正 本 愛 子
親 族 一 同

私が正本先生を知るきっかけとなったのは平成24年の冬のことでした。4月から一年間さくら守育成講座が開かれると知りました。それまで転勤で各地に勤務しましたが どこにもさくらの名所がありそれぞれにさくらの美しさを感じていたものです。この地に居を構えてからはさくらばかりでなく庭木の手入れの参考にでもなればと受講することにしました。生徒は5人 講師は広島県緑化センターの相談役 正本良忠 氏でした。教室での講義、吉香公園での実習 今まで知らなかったことばかりで毎月の講座が楽しみでした。しかし一年を通じて残ったのは3人 修講時に ボランティアグループ「錦帯橋さくら守の会」を立ち上げますので3月31日に集まって下さい。 とのことで何の用意もなく出かけました。そこには市役所からも参加しておられ設立趣意書や会則更に事務局候補の人まで、さらに報道各社 鈍い私はここに至ってもまだ気付きませんでした 3人の中の一人だと やがて「じゃ誰が会長を」皆さんが一斉に私の方を 「えッ とんでもない」と思いましたが先生の「だいじょうぶ私も会員となり毎月参加します。技術的なことや知識に関しては教えますから」の一言にやむなく引き受けた次第です。7名のグループで発足しました。

あれから間もなく二年 22回の活動をしてまいりました。さくら切る馬鹿 と間違った知識の素人集団でしたが先生のやさしく適切な指導のもと時にはユーモアを交え病気や枯れた枝の判定、剪定 害虫駆除 菌糸類、蔦類の除去及び施肥技術を教えていただきました。会員の全てがこれらの知識、技術をまだまだ修得には至りませんが少なくとも理解することが出来たと思っております。また会員も次第に増え現在は21名となっております。これもひとえに先生の卓越したご指導とお人柄のたまものと本当に感謝いたしております ありがとうございます。

先生は遠い広島に住んでおられます。活動日にはいつも早めに来られ必ず奥さまとご一緒でした。はたから見ても羨ましい程の夫婦でした。「な 愛子」のことばを一日何回聞いたことでしょうか。「愛子 あの なに あれはどこやったかなー」 「はい これでしょう」 と奥さまが車から持ってこられるのですからはたの者には信じがたいことでした。

お酒の席も2回ほどありました。「先生は醸造がご専門と伺いましたが なぜ木の世話をする方に進まれたのですか？」 「さあー 若い時は気が多かつたんじゃないでしょうかねー 木がね」と カラオケもマイクだけでのアカペラで聞く人をうならせておられました。 広島カープのファンでもあり今度一緒に応援に行きましょう。流川で飲みましょう とのお誘いを受けたこともありました。

次は樹形を整えるためや樹勢を元気づけるための生木の剪定方法についてやっていきましょうと言われておりましたがかないませんでした。



剪定 消毒



お酒の大好きな正本先生



作業の合間の休憩

2月に講演を依頼しておりました。原稿の打ち合わせをしなければと電話しようと思っていたその日でした。突然のお別れになってしまうとはいまだに信じられない思いです。



講義中の正本先生



佐野藤右衛門氏の講演の後



チョット贅沢な昼食会

広島交響楽団員のバイオリン、ビオラ、クラリネット三重奏 G線上のアリアやアカペラでお聞きした ふるさと ヤシの実 の調べに送られながら旅立たれた先生先生との最後のお別れは今も広島県緑化センターに咲いているから見に来てとお話されていました 「10月桜」を手折り胸元にたむけながらさくらを大切にすることをあらためてお誓いしました。
どうか安らかに眠りください。



平成26年12月8日 正本先生最後の「錦帯橋さくら守の会」活動参加